



2026 - 2028 年度

中期経営計画

2030年度に向けたロードマップ

2026年5月15日

富士ユナイトホールディングス株式会社

(コード番号416A 東証スタンダード市場)

環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて 社会に貢献するグループであり続ける

環境問題への対応とエネルギーの安定供給は、企業に求められる重要な社会的責任となっています。

富士ユナイテッドグループは、
これまでの石油を中心としたエネルギー分野で培った事業基盤を活かし、
事業ポートフォリオを「グリーン中心」へとシフトすることにより、
「環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給の両立」を目指してまいります。



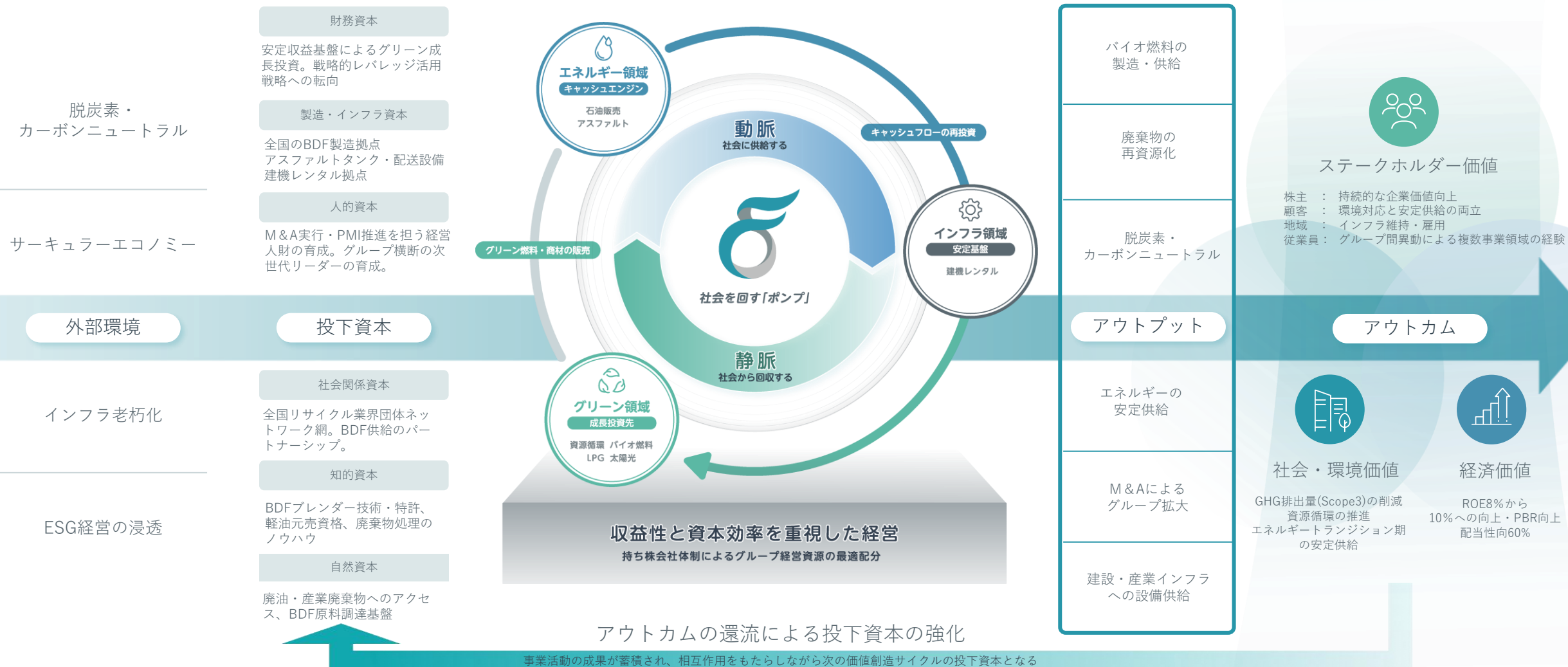
議題

はじめに	P. 4	価値創造プロセスとエグゼクティブサマリー
1. 富士ユナイトホールディングスグループについて	P. 7	グループ長期ビジョンと戦略ストーリー
2. 中期経営計画（2025年度実績と2026年度計画）	P.10	2025年度実績と2026年度計画
3. 2030年度ロードマップ	P.12	次なる成長ステージへの挑戦
4. グループ成長戦略	P.21	各事業会社の成長戦略
5. 経営指標（KGI）	P.23	企業価値向上に向けた取り組み
6. 財務計画と経営資源配分	P.24	キャッシュ・アロケーションと人材戦略
おわりに	P.29	グループの未来展望

変わる明日を、しなやかに支える

be open to changes for tomorrow

長期ビジョン 環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて社会に貢献するグループであり続ける



中期経営計画概要 (2026年度 - 2028年度)



グリーン領域への積極的な戦略投資



持株会社体制による効率的なグループ経営



持続可能な成長への投資と株主還元の両立

財務目標および株主還元方針

領域別
営業利益 (28年度)

18.0 億円

ROE (28年度)

8.0 % 以上

配当性向

60 % 以上

* 2026年度配当単価は、年間62円/株 (2025年度実績と同単価)

領域別営業利益
グリーン領域構成比
(30年度)

60 % 以上

エグゼクティブサマリー 2

(単位：億円)		2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
	領域別営業利益	15.3	15.0	15.8	18.0
	グリーン領域	4.5	5.2	6.8	8.5
	エネルギー領域	7.4	6.6	5.7	6.1
	インフラ領域	3.4	3.2	3.3	3.4
	共通経費/のれん	▲3.5	▲5.0	▲5.0	▲5.0
	グループ営業利益計	11.8	10.0	10.8	13.0

M&A関連の営業損益を除く

① 長期ビジョン

環境のグリーン化対応と
エネルギーの安定供給を通じて
社会に貢献するグループであり続ける



② 戦略

1

リサイクル事業の拡大

積極的な投資により、既存の安定収益事業を基盤として新たな収益を取り込む

2

環境対応エネルギーの事業化

バイオ燃料などの環境対応エネルギーを、新たなコアビジネスとして事業化

3

持株会社体制による効率的なグループ経営

持株会社体制による効率的なグループ経営を推進し、収益性と資本効率を重視した経営を実現

収益性と資本効率を重視した経営により、富士ユナイトグループの 持続可能な成長に向けた事業ポートフォリオの構築とグループ価値向上を実現する



リサイクル事業の拡大

- M&Aの実行によるネットワークの構築
- グループの技術と知見によるバリューアップ
- 新たなリサイクル資源のビジネス化



環境対応エネルギーの 事業化

- バイオ燃料製造5万KL体制
- 2次基地整備による全国供給体制
- 再生重油の供給体制構築によるグループシナジー創出



持株会社体制による 効率的なグループ経営

- グリーン領域への積極投資
- 収益性重視の事業運営
投下資本効率の向上
- 次世代マネジメントの育成

💡 グループマークコンセプト



変わり続ける市場や社会の要請に柔軟に応え
続けるグループの姿勢を表現し、

シンボルマークは、流線形のフォルムで構成。

将来的な経営戦略の進展と齟齬が生じないように特定の事業領域の表現を避け、
循環型社会実現に向けた事業展開という長期ビジョンを体現している。

循環を表す「円環」と、ホールディングスの頭文字「F」をかたどった旗型の
シェイプを組み合わせている。

また、この「F」にはグループの前身である富士興産のDNAである燃料を
想起させる「炎」の意味も込めている。

📍 タグライン

変わる明日を、しなやかに支える

be open to changes for tomorrow

📍 社名の由来

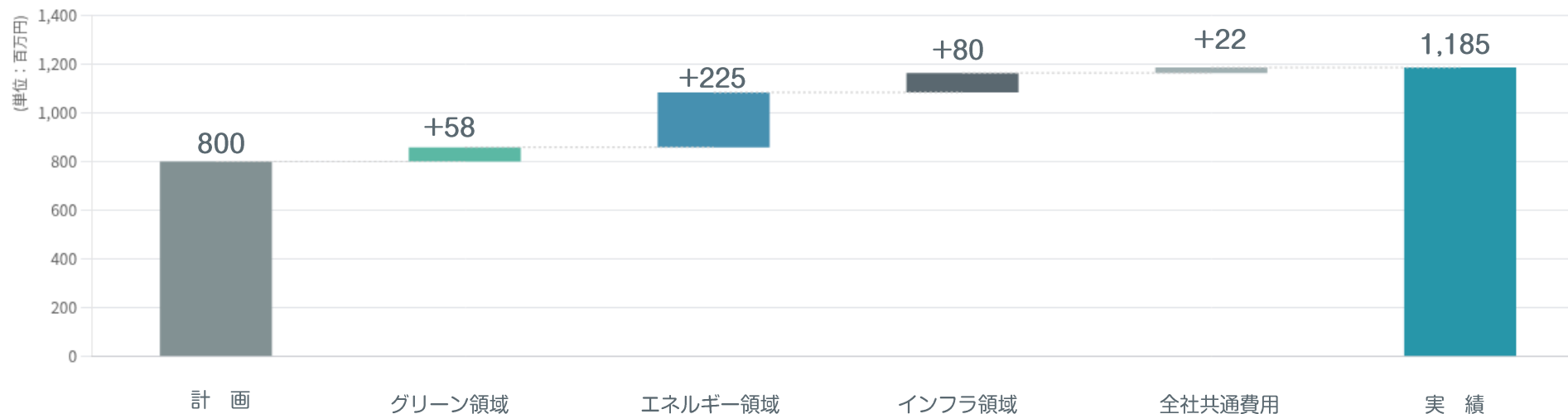
富士興産グループの「富士」を継承し、
社会環境との調和とグループ会社間の結束を実現するという

想いを込めて「融和・連携・協力」の意味をもつ

UNITED (ユナイト) と名付けた。

2-1 中期経営計画（2025年度営業利益実績）

全領域で収益改善により計画達成



グリーン領域

リサイクル事業

- ・資源リサイクル：
素材売却単価上昇、高付加価値案件の獲得
- ・オイルリサイクル：適正販売+回収数量確保

ホームエネルギー事業

- ・「安全・安心・安定」の供給体制の維持と強化

環境対応型エネルギー事業

- ・バイオ燃料需要が想定を下回り予算未達
- ・設備コストによる経費負担増



エネルギー領域

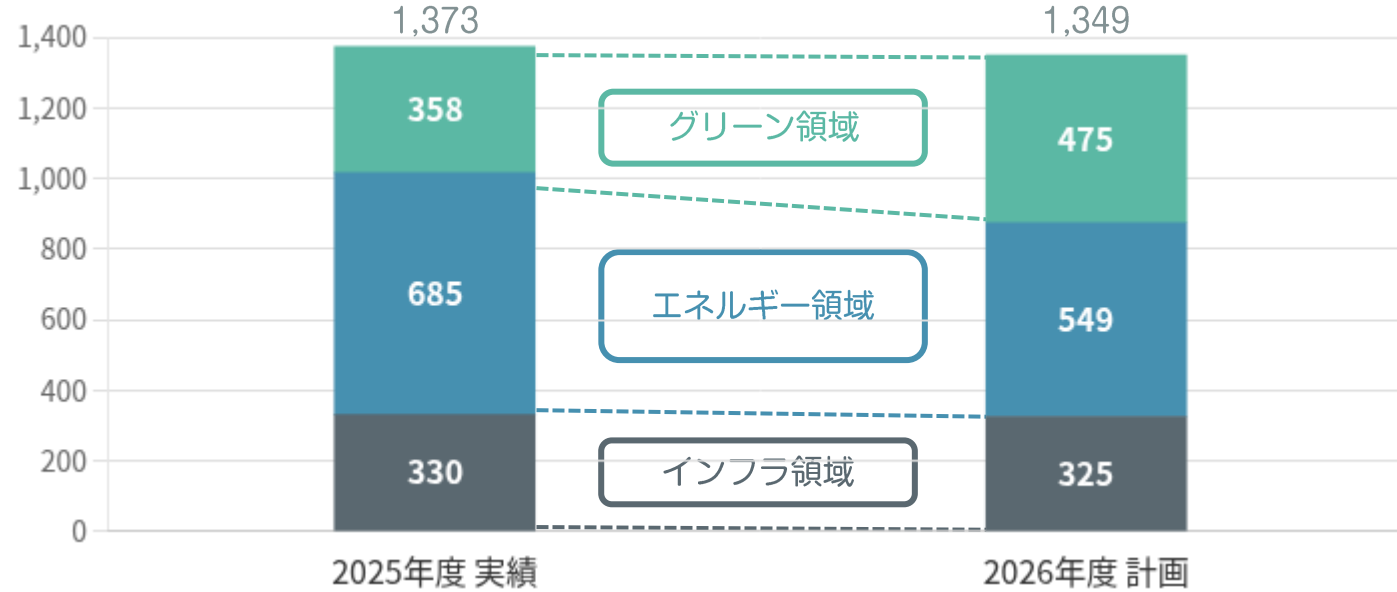
- ・需給が逼迫する中で、安定供給を着実に実現したこと、市況に応じた適正販売を行った
- ・在庫評価益の寄与



インフラ領域

- ・売上/利益ともに予算を上回って推移し、収益性を重視した運営により安定的に収益を確保
- ・高収益案件の取り込みと不採算要素の整理により収益体質は改善
- ・原価管理および固定費コントロールを徹底し、収益の質を伴った成長基盤を強化

(単位：百万円)



(百万円)	2025年度実績	2026年度計画
グループ計 営業利益	1,185	1,000
グループ 共通費用	▲188	▲349



グリーン領域

リサイクル事業

- トナー再資源化事業の立ち上げ
- リサイクル設備、収集/配送トラックの修繕コスト増

ホームエネルギー事業

- 既存事業収益の安定化と新規事業の立ち上げ
- 原価管理徹底による収益強化

環境対応エネルギー事業

- バイオ燃料事業環境の整備
- GX-ETS導入によるバイオ燃料需要の増加
- 設備コストによる経費負担増



エネルギー領域

アスファルト自社タンクのメンテナンスコスト増

(前年度からの)在庫評価益の反動

市況に応じた適正販売



インフラ領域

建設機械等調達コストの上昇











設備メンテナンスのシステム導入に伴うコスト増

民間解体工事案件/新規案件の取り込み

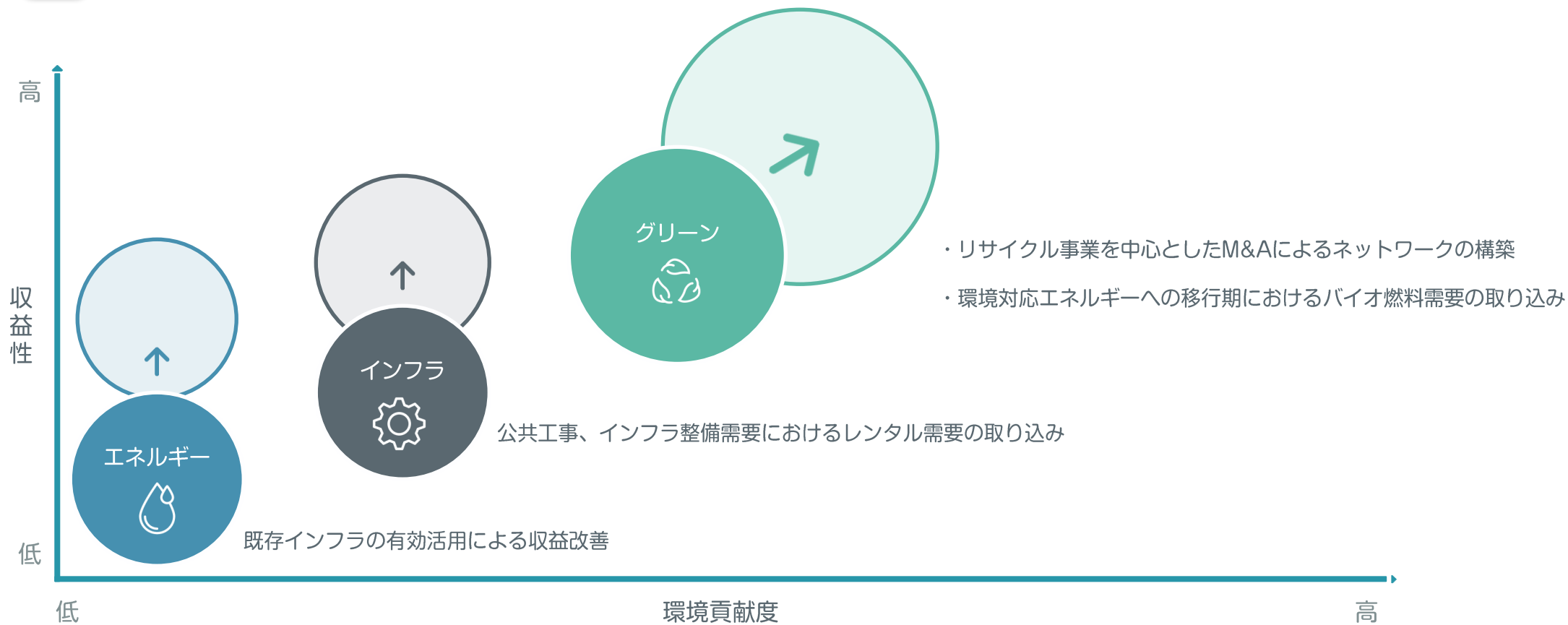
3-1 2030年に向けたロードマップ - 次なる成長ステージへ -

「グリーン」「エネルギー」「インフラ」の3つの新たな領域に再編し、富士ユナイトグループは、次なる成長ステージへの挑戦を開始しました。

各事業領域へ経営資源を最適に配分し、持続的な成長を加速させ、グループ価値の最大化を目指します。

事業領域	環境開発工業	富士ホームエナジー	富士興産	加島	富士レンタル
 グリーン	 リサイクル	 ホームエネルギー	 再生可能エネルギー	 リサイクル	
 エネルギー			 石油	 石油	
 インフラ					 レンタル

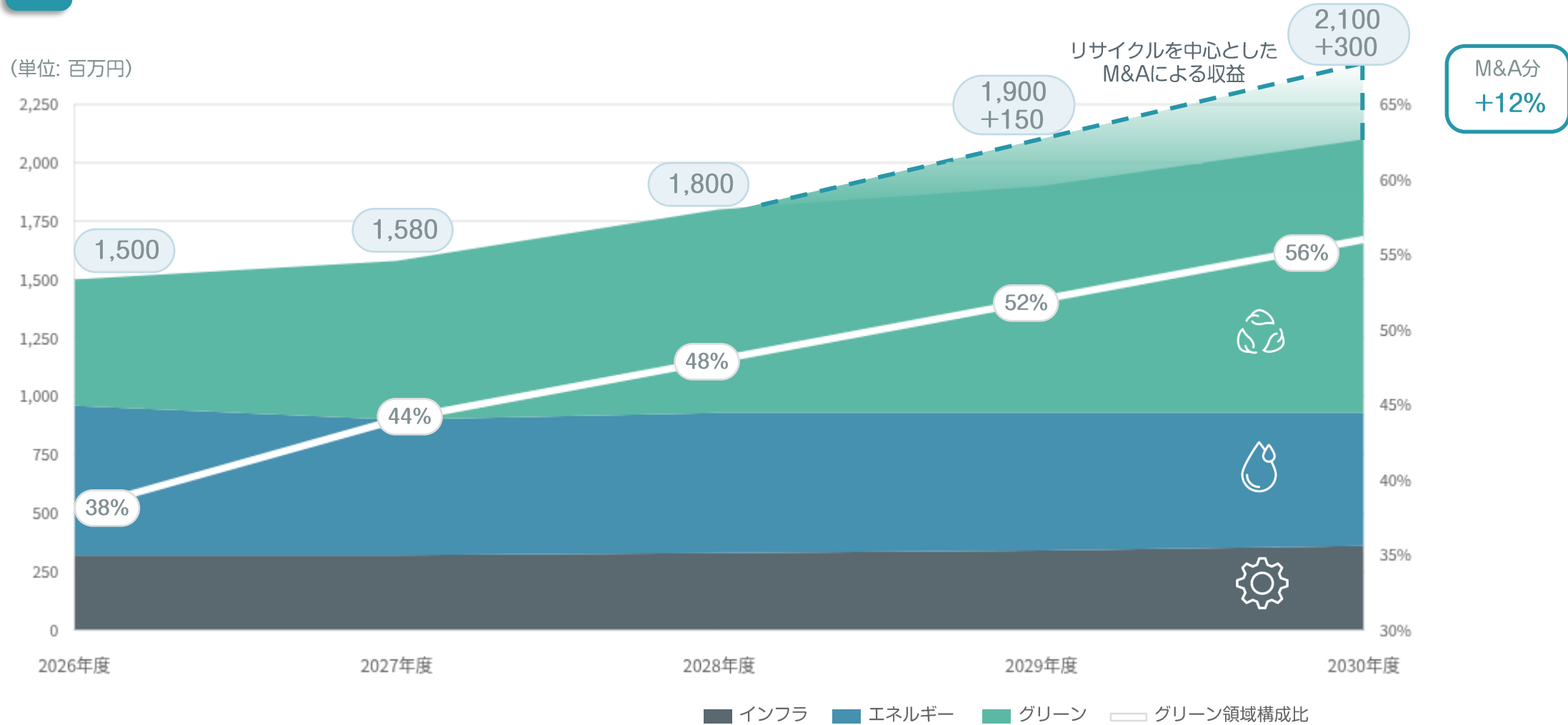
領域別成長イメージ



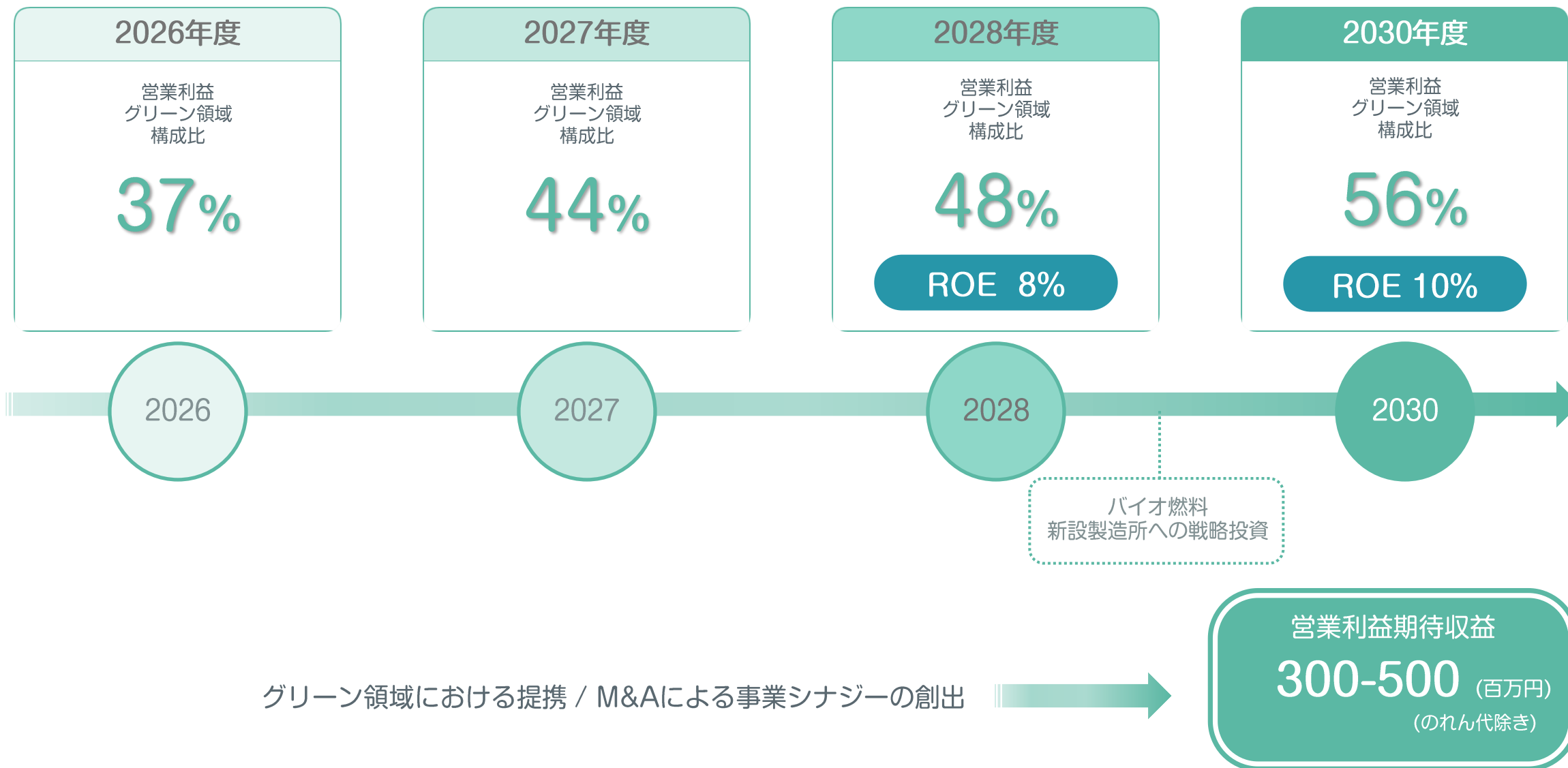


領域別営業利益計画 (*) とグリーン領域構成比

(*)グループ共通費/のれん代 計約5億円除く



3-4 グリーン領域成長戦略（既存事業）

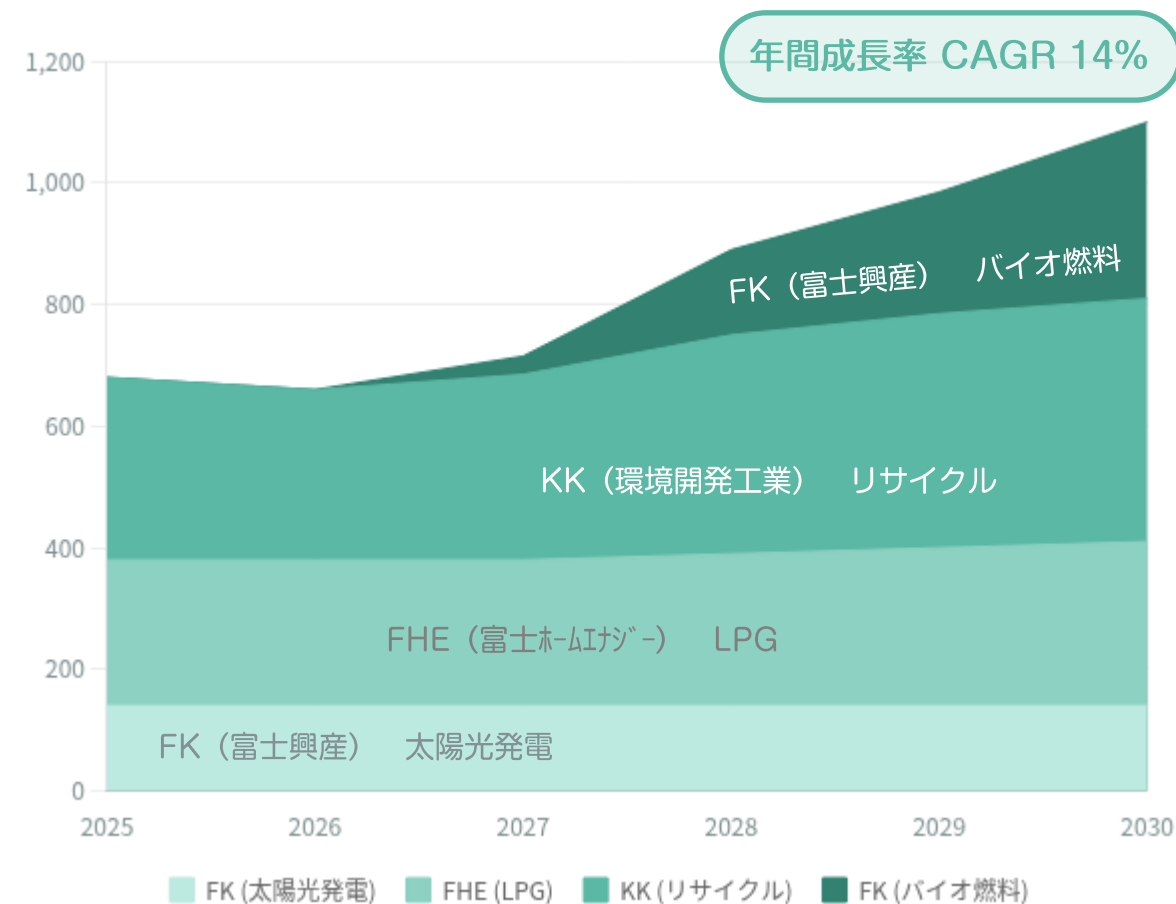


3-5 グリーン領域成長戦略（既存事業）

営業利益計画（単位：百万円）

グリーン領域	2025	2026	2027	2028	(2029)	2030
富士興産 バイオ燃料	▲110	▲85	30	140	200	290
環境開発工業 リサイクル	300	280	305	360	385	400
富士ホームエナジー LPG	240	240	240	250	260	270
富士興産 太陽光発電	140	140	140	140	140	140
計	570	580	700	900	1,000	1,100

既存事業の成長（単位：百万円）





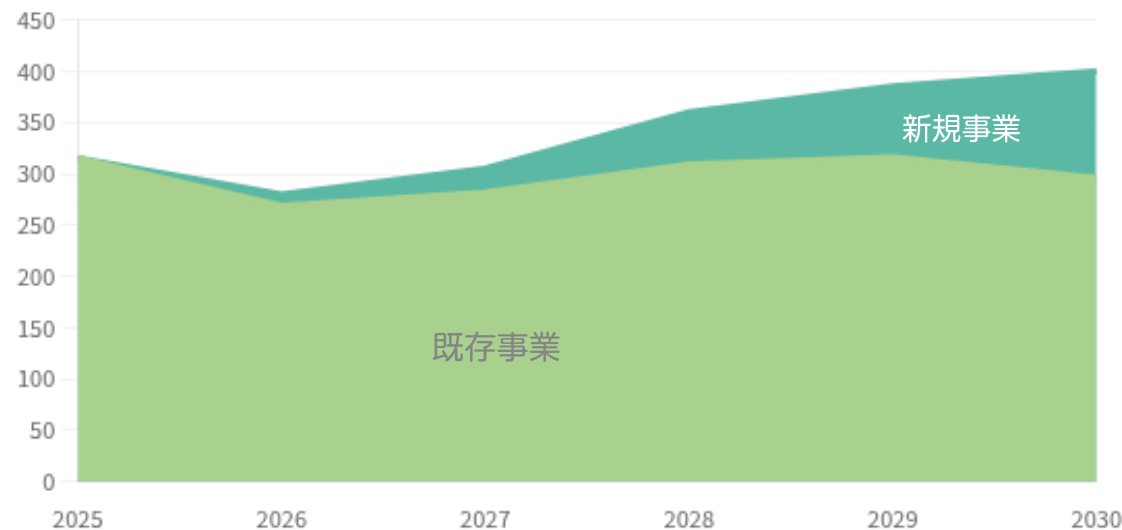
グリーン領域の中核事業会社 環境開発工業の成長戦略



リサイクル技術と知見、ネットワークの事業リソースにより、既存安定収益事業を基盤として、動脈産業を含めた新たな連携によるトナー再資源化などの新規事業を立ち上げ、新たな収益を取り込む

■ 営業利益計画

(百万円)	2025 見込み	2026	2027	2028	(2029)	2030
営業利益 (新規)*	0	11	23	51	69	104
(既存)	315	269	282	309	316	296



* トナー再資源化など



グリーン領域の中核事業 富士興産バイオ燃料事業の成長戦略

バイオ燃料 × カーボンクレジット × LCA(環境価値)の統合ソリューションサービスの提供

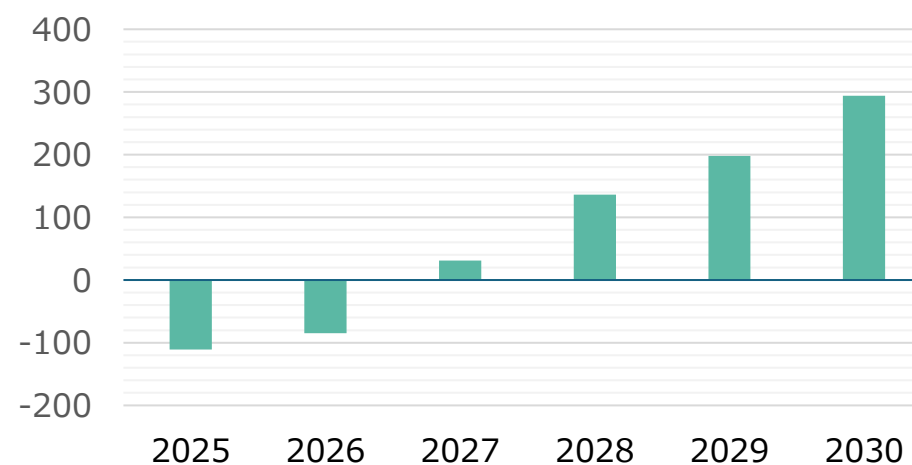


燃料油販売知見と販売ネットワークを供給基盤として、
 全国6製造拠点（自社製造拠点、アライアンス先拠点）を有するバイオ燃料メーカーとしての地位を確立する

■ 営業利益計画

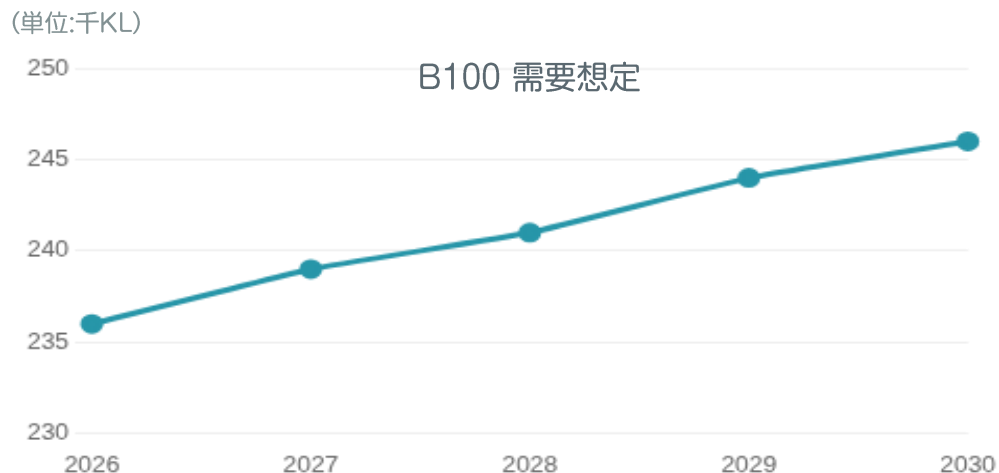
(百万円)	2025 見込み	2026	2027	2028	(2029)	2030
営業利益	▲111	▲85	31	136	198	294

営業利益（百万円）



3-8 グリーン領域成長戦略（既存事業）

富士興産バイオ燃料販売計画（前提）



- ・建設業の軽油代替率と必要改善率から各業界の2030年度時点の軽油代替率を設定
- ・バイオマス燃料需要想定試算 = 業界別軽油需要想定 × 軽油代替率・・・B100ベース

重要指標

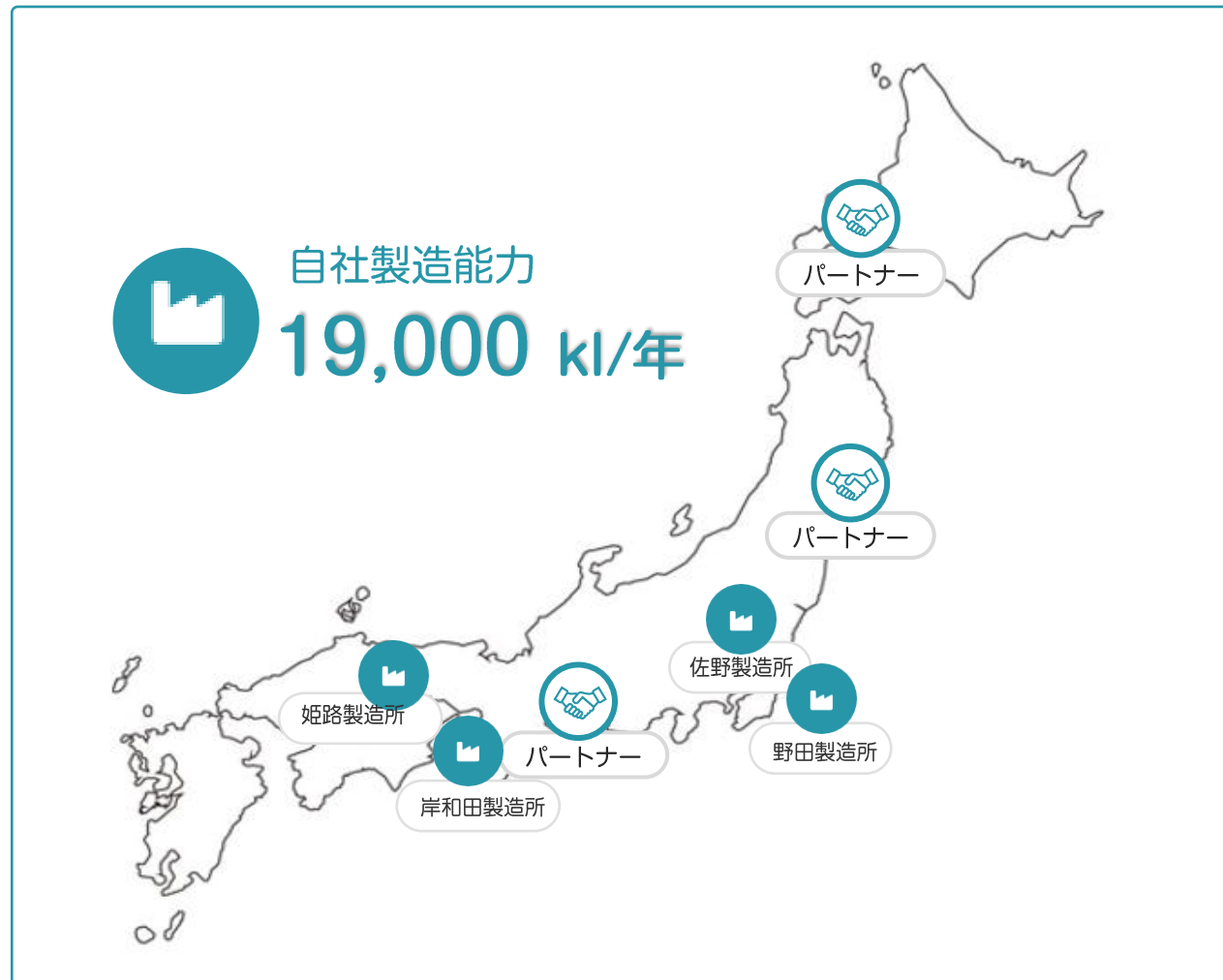
2030年時点 軽油代替率 想定(B100)	(軽油全体の) 0.9%
2026年から2030年までの B100需要 CAGR	1.0%
2030年 富士興産 想定市場シェア (B5換算)	10.0%



事業環境	バイオ燃料需要への影響
(内部環境) 次世代エネルギー一部の組織化	<ul style="list-style-type: none"> ・官公庁・業界団体に向けた渉外活動 ・環境対応エネルギーへの補助金提言 ・B7規格、B20規格設定への提言
GX-ETS導入 (炭素価格付与による) 化石燃料実行コストの上昇	ドロップイン燃料であるバイオ燃料の需要拡大
サプライチェーン全体での 排出量管理強化の流れ	自社取り組み Scope1)燃料の燃焼 Scope2)電気の使用 からScope3)対応へ 原材料(上流)／製品(下流)の輸送・配送
温対法 (地球温暖化対策推進法)	バイオ燃料は排出CO ₂ が算定対象外となるため、 同じ熱量を得ても基礎排出量(Scope1)が小さくなる
改正省エネ法	バイオ燃料は「非化石エネルギー」に該当 特定事業者は非化石比率の向上、中長期計画への 反映が求められる

3-9 グリーン領域成長戦略（既存事業）

富士興産バイオディーゼル燃料の供給エリアマップ



製造所詳細情報

岸和田製造所（大阪府）

開所：2023/5～
取扱油種：B5/B30/B100
製造能力：5,400KL/年
専用車両：B5/B30（3.75KL×2台）



姫路製造所（兵庫県）

開所：2025/11～
取扱油種：B5/B30/B100
製造能力：12,000KL/年



野田製造所（千葉県）

開所：2024/11～
取扱油種：B5/B100
製造能力：1,200KL/年※
※2026年末まで段階的に5,000KL/年へ増強



佐野製造所（栃木県）

開所：2025/9～
取扱油種：B100（精製）
製造能力：300KL/年



パートナー企業

札幌（B5/B100）

仙台（B5/B30/B100）

名古屋（B5/B100）

持続可能な成長に向けた事業ポートフォリオの強化とグループ価値向上の実現

経営戦略3本柱

リサイクル事業の拡大

積極的な投資によるリサイクル事業の「拡大」

環境対応エネルギーの事業化

環境対応型エネルギーのコアビジネス化の「加速」

効率的なグループ経営

持株会社体制による効率的なグループ経営

戦略実行を支える5経営基盤



人的資本

経営戦略を実行できる
人材・組織力の強化



ガバナンス

健全かつ透明性の高い経営の確保



DX推進

経営効率と付加価値創出力の向上



広報・IR

企業価値と社会的評価の向上



リスク管理

経営の安定性と持続性の確保

4-2 グループ各事業会社 成長戦略



グリーン領域



環境開発工業

♻️ <リサイクル>

既存事業の維持・拡大
トナー再資源化をはじめとする新たなビジネスの創出
グリーン事業のけん引役として2030年に向けた礎づくり



富士ホームエナジー

🏠 <ホームエネルギー>

集合住宅へのガス供給のさらなる拡大と収益の維持
「暮らしをトータルで支える企業」を目指した新ビジネスの確立



富士興産

🌿 <環境対応エネルギー>

全国製造拠点を有するバイオ燃料メーカーの地位確立
関係官庁および顧客を含むステークホルダーとのバイオ燃料
事業環境の整備



加島

♻️ <リサイクル>

資源循環事業の新たな成長基盤構築



エネルギー領域



富士興産

🛢️ <石油>

当社商品の付加価値を高め取引先を拡大し、収益を維持した安定
基盤を確立

供給体制の拡充（陸上配送・海上配送、出荷拠点の維持拡大）に
より取引先への供給責任の遂行



加島

🛢️ <石油>

既存事業のさらなる拡大に向けた基盤再構築



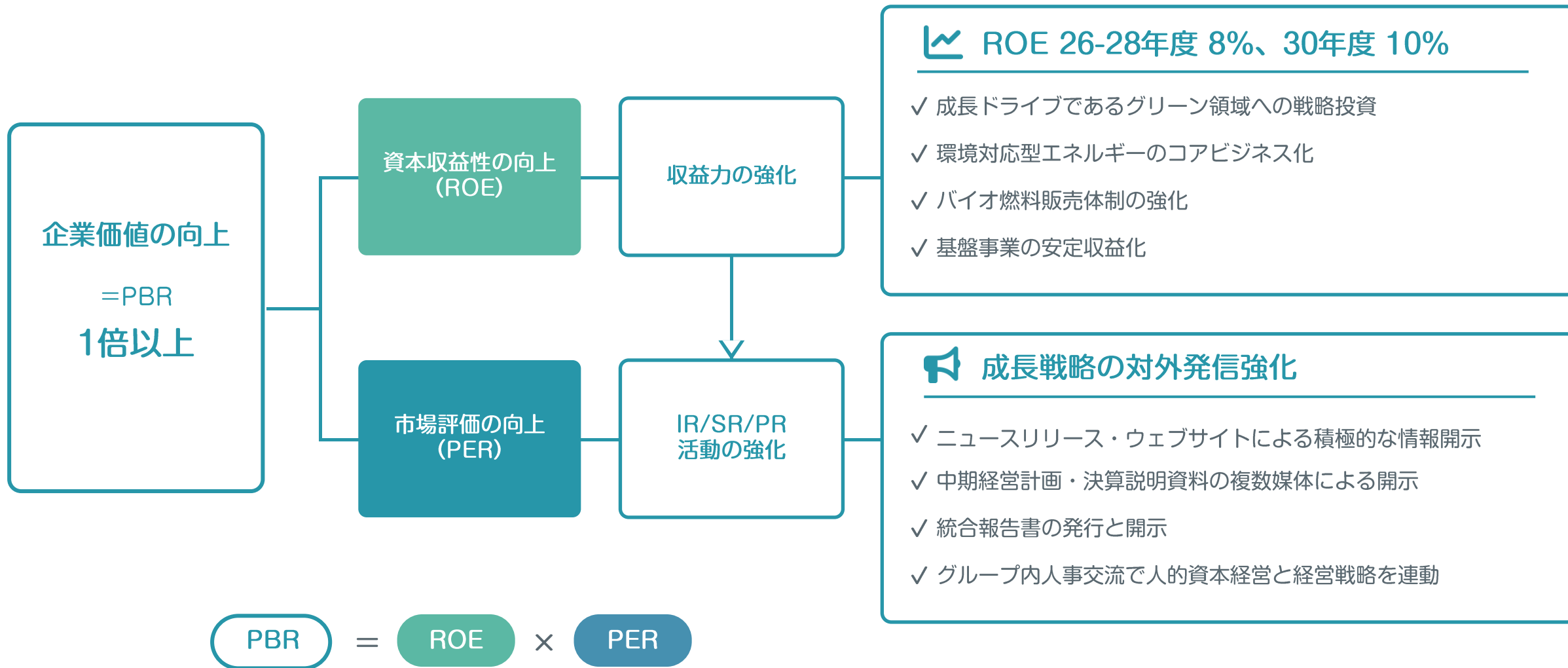
インフラ領域



富士レンタル

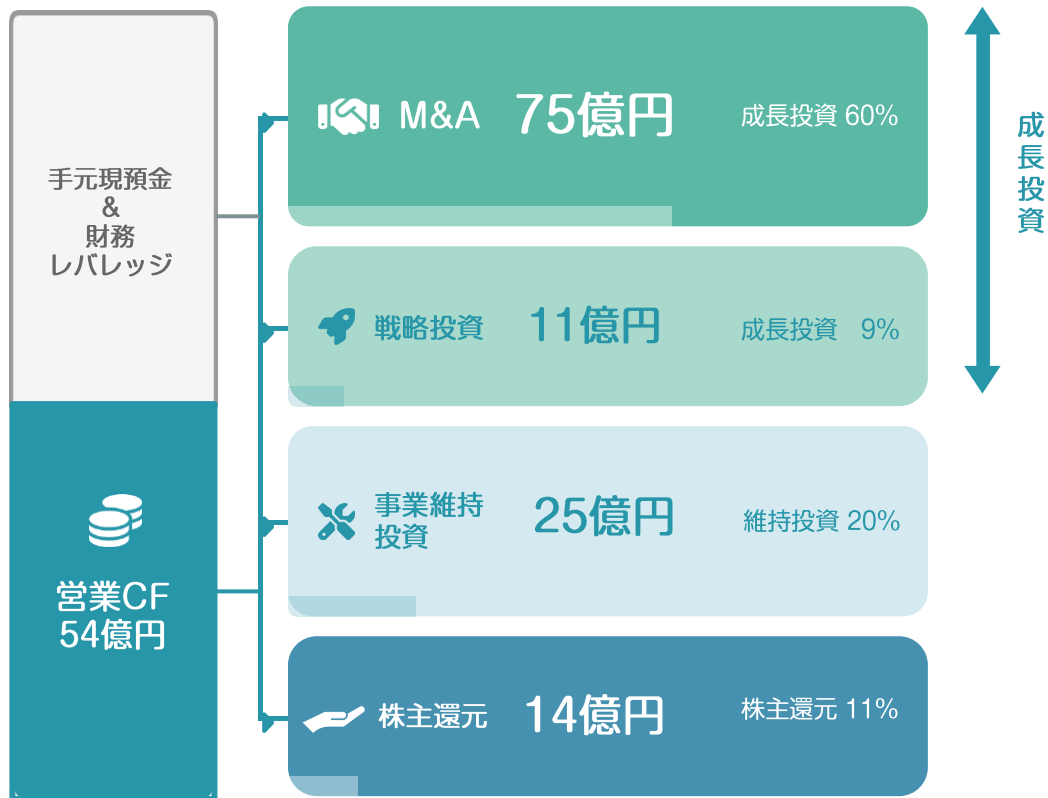
🚚 <レンタル>

民間工事需要の積極的な取り組み
安全対策を軸とした顧客向け提案の推進



持続的成長のための戦略投資と高水準株主還元の両立

キャッシュ・アロケーション (3カ年累計)



成長投資	維持投資	株主還元
86億円 (69%)	25億円 (20%)	14億円 (11%)

M&A 75億円

- ✓ リサイクル事業を中心とした積極的なM&A
- ✓ 業界ネットワークとPMI実績の活用

戦略投資 11億円

- ✓ トナー再資源化等リサイクル新商材の処理設備
- ✓ バイオ燃料製造設備
- ✓ 新規事業立ち上げによる事業拡大
- ✓ システム化を含む業務効率向上

事業維持投資 25億円

- ✓ レンタル機械、油槽所設備等の更新投資
- ✓ 情報システム関連の更新投資

配当方針 株主還元 14億円

- ✓ 配当性向60%と戦略投資のバランス
- ✓ 2026年度配当：通年62円/株を計画

6-2 人的資本経営：中期経営計画と連動した人事戦略

経営戦略（中期経営計画）		
🌐 グループ戦略	🎯 長期ビジョンの達成	
	🤝 グループ一体経営	
📈 グループ重点施策	📈 成長	🌱 グリーン領域の営業利益構成比の向上
		♻️ リサイクル事業を中心とした積極的なM&Aの実行
		⚡ 環境対応エネルギーの事業化
		📈 収益性の向上
	⚖️ 規律	🛡️ 内部統制 ガバナンスの強化・向上
💰 投下資本の効率化（投資採算管理）		

人事戦略	
👤 求める人材像の浸透	タウンホールミーティングでの トップマネジメントとの対話の場
🔄 グループ横断人事交流	グループ人材マネジメント
👤 グループ経営人材の 安定的・継続的育成	階層別研修 + 次世代リーダー研修
🎓 専門人材育成 (M&A、PMI)	リスキリング・継続学習の場の提供
⚙️ リサイクル/製造品質 管理人材育成	専門人材への学習の場の提供
🏆 挑戦と成果を正しく 評価する人事制度の構築	グループ チャレンジ社員表彰制度の導入
👥 多様な人材が活躍できる 職場環境の整備 🌱 社員一人ひとりの自律的 な成長を促す仕組み	女性管理職の登用促進と候補者の育成 65歳を超えても生き生き働ける制度設計 障がい者受入(雇用)のための社員教育 在宅勤務制度/(コアタイムなし)フレックス勤務
🛡️ 専門人材育成 (内部統制、FP&A)	専門性と変革力を併せ持つ人材の育成 自律的な学習と挑戦を促す環境整備

グループ一体経営の基盤となる企業文化

グループ一体経営を推進する人材

“ グループ横断の人材交流や人事異動による人材リソースの最適化と最大化により、グループの持続的成長に向け、全体最適の視点で、変革を主体的に推進できる人材の育成に取り組んでいきます ”

★ 当社グループが求める人材像は、3つの意識を備えた人材です ★




 多様な人材が互いの価値観を尊重し、自由に意見を言い合え、個人個人が力を発揮できる組織文化の醸成

6-4 財務計画と経営資源配分 - サステナビリティに関する取り組み -

📁 分類	🕒 マテリアリティ	☰ 戦略の概要
 E (環境) Environment	① 環境への貢献	♻️ 環境負荷低減に資する商品・サービスの提供
		♻️ サークュラーエコノミーを担うリサイクル事業等の推進
		🔗 シェアリングエコノミーに貢献するレンタル事業等の推進
 S (社会) Social	② 良質な製品・サービスの提供	📦 社会の要請に対応した製品・サービスのラインナップの拡充
	③ 人材育成・社内環境整備	🔗 サプライチェーンの維持強化
		👤 グループ経営人材の安定的、継続的育成
		👥 多様な人材が活躍できる職場環境の整備
	④ 地域社会への貢献	🌱 社員一人ひとりの自律的な成長を促す仕組み
📍 地域に根ざした事業展開の推進		
 G (ガバナンス) Governance	⑤ コーポレート・ガバナンスの強化	♻️ 地域サーキュラーエコノミー（地域資源循環）への貢献
		⚖️ 経営の透明性を高めるコーポレート・ガバナンス体制の構築
		🔪 コンプライアンスの徹底
		📄 非財務情報を含む情報開示の充実

田 非財務目標一覧

2025年度実績と2028年度目標

非財務目標	2025年度実績	2028年度目標
 有休取得率	65.8%	70.0%
 男性育児休業取得率	50.0%	100.0%
 教育関連費/年	1,300万円	1,800万円
 研修受講者数/年	751人	1,000人
 女性管理職者比率	11.4%	15.0%
 女性従業員比率	18.4%	20.0%

環境のグリーン化対応とエネルギーの安定供給を通じて 社会に貢献するグループであり続ける

「エネルギー」と「インフラ」で安定したキャッシュを創出しながら、成長領域である「グリーン」へ経営資源を集中し、事業構造の転換を進めてまいります。

2030年には領域別営業利益20億円規模へ成長し、その約6割をグリーン領域が占める構造への転換を目指します。この利益構造の転換こそが、当社グループの企業価値向上の本質です。

グリーン領域の成長は、既存事業の積み上げとM&Aによって加速させます。特にリサイクル分野のM&Aでは、業界ネットワークとPMI実績を背景に再現性のある成長モデルを構築しており、回収・製造・販売を一体で展開する事業基盤を活かし、独自のポジションを確立してまいります。

当社は、高水準の株主還元を維持しつつ成長投資を着実に実行し、「安定」と「成長」を両立することで、持続的な成長と資本効率の向上を実現してまいります。

変化の激しい時代においても、社会基盤を支える責任を果たしながら、しなやかに進化し続けてまいります。

本中期経営計画は、そのための明確な道筋であり、当社グループの強い意志の表れです。本計画の着実な実行を通じて、持続的な成長と企業価値の向上を実現してまいります。



変わる明日を、しなやかに支える
富士ユナイトホールディングス

安定を礎に、 グリーン成長へ



⚖️ 安定



中期経営計画 2026 - 2028 年度